

香川県のミズニラ

納田 美也

ミズニラ (*Isoetes japonica* A. Br.) が生育しているとの報告を受け、発見者である豊島弘氏 (高松一高教諭) に案内をお願いし、確認することにした。採集した植物に始めて接した時、“ミズニラ” という和名がぴったりに感心した。必要最少限の個体を持ち帰り、ミズニラの記載 (水生植物図鑑、牧野植物図鑑) と対比したが、植物体が小形であること、大胞子の表面に微小突起があることなどから“ヒメミズニラ (*Isoetes asiatica* Makino)” ではないかと思われた。しかし、ヒメミズニラの分布地が「中部以北で希少価値のある水草」と記されており、温暖な香川県に生育していることから、直ちに肯定するには、ためらわれた。香川県では今迄に、大阪市大の粉川昭平氏によって1978年に、五色台のタンベ池で珍しい植物“ミズニラ” が確認されたとの話があるだけだったので“ヒメミズニラ” らしき水草に少なからず興奮した。その後、タンベ池は干上がってしまい、ミズニラも今は見るができなくなっている。

ヒメミズニラらしき植物を確かなものにするため、この大胞子を取り写真を撮ろうとしたが、透過光での像がもう一つはっきりしなかった。そこで、実体顕微鏡を用いたのだが、のぞいて見てびっくり。胞子には突起がなく、そこにはハチの巣を思わせる網状の穴が並んでいるではないか。対象物が違うのかと疑われる程のことにあわてた。既に、ヒメミズニラとして“水草研究会々報”の短報へ載せるべく原稿を送っていたので、急ぎ角野先生に連絡。そこで、光田重幸氏 (京都大・理学部) を紹介された。光田氏に標本を送るべく、再び採集に出かけた。この植物の生育地は、香川県満濃町帆山の谷合にある小さな溜池で、標高、220 m (北緯 34°09′、東経 133°51′) である。ヒメミズニラが生育している八甲田山麓の葛沼は標高 480 m (北緯 40°36′、東経 140°58′) で、6°以上も南に位置した高度の低い帆山とはあまりにも環境条件が違い過ぎる。採集しながら、私のヒメミズニラであって欲しいという願望(?) は打ちくだかれていったのだった。そして、光田氏からは、京都大学で生育している兵庫県産のミズニラの特徴と一致することから“ミズニラ” に間違いはないとのお返事を頂いた。透過光を用いての検鏡上のご注意も受けた。全くもって恥かしい。

ヒメミズニラではなかった。しかし、ミズニラが香川県では今まで、正式に記録されてなかった植物であることについては収獲である。この溜池には、ミズニラの他に、クロモ (*Hydrilla verticillata* (L.f.) Casp.)、ホソバミズヒキモ (*Potamogeton octandrus* Poir.)、シャジクモ (*Chara Braunii* Gmel.)、ジュンサイ (*Brasenia schreberi* J. F. Gmel.) 等も見られるので水草の宝庫のような溜池である。水田が減っていく現在、いつまでこの溜池が残されているか。水草だけのため溜池は考えられないので、今後が心配である。

(香川大学教育学部生物学教室)

ホソバミズヒキモの殖芽の休眠について

浜島 繁隆

水草の中には、環境条件の悪化により耐性芽を作るものが多く知られている。この耐性芽が殖芽と言われる所以は、繁殖器官としての役割が大ききことによる。ホソバミズヒキモ (*Potamogeton octandrus*) は、静水域、流水域をとはず広く分布し、ヒルムシロ科の間では適応幅の広い種と言える。その一つの秘訣は、多量の殖芽を形成し、繁殖力が強いことではないかと思われる。秋、枝の先端に1~2節からなり11~12 mm程の長さの簡単な殖芽を作る。夏季にもときどき形成するが、どのような要因によるのかわからない。現在、神戸大の角野康郎氏により、ヒルムシロ科の殖芽の比較研究が進められているので、いずれ新しい知見が発表されることを期待している。

水草の殖芽には、二つのタイプがみられる。

一つは、適温になれば (環境条件がよくなれば) 直ちに発芽、生育を始めるタイプ、もう一つは、休眠をするもので、低温処理などで休眠を破らないと発芽しないタイプである。11月下旬に採集した殖芽を暗所 20℃に保存すると、ウキクサ、トチカガミの殖芽は約2週間で発芽を始めた。しかし、ホソバミズヒキモ、クロモの殖芽は変化がみられなかった。これは休眠のためと考えられる。クロモの殖芽は、低温やGAにより休眠を破ることができる (S. S. Sastroutomo, 1980)。ホソバミズヒキモの殖芽についても、低温処理で休眠を破ることができた。その結果についてつぎに報告をする。

実験方法

ホソバミズヒキモの殖芽は、1981年11月23日、観